

Japanese man In NY (ニューヨーク生活)



Strawberry Fields in Central Park, New York City

《 New Grad in NY 》

今回はニューヨークで社会人1年目を迎えた頃の話。このコーナーで何度か触れたが、ニューヨークに渡ったのは、大学卒業式を終えた1週間後だった。アルバイトで貯めた約50万円から、渡航費や旅行保険代、学生ビザ取得のために現地の英語学校に支払った1ヶ月の授業料等を差し引いて、約35万円の日本円をドルに替えて渡った。

住む所も決まっていなかったが、ニューヨークでウッドベースを買うことも重要だったため、何とか約1ヶ月程は暮らせるだろうという感覚のみ。あとは向こうに渡ってから何とかしよう、何とかになるという気持ちで不安はほぼゼロ。念願だったニューヨーク生活が出来るんだという意気込みと興奮しかなかった。今思うと無謀極まりないが、同時にタイムスリップしたとしても、また同じ行動をとるに違いない。

ニューヨークに渡ってから、アパートも決まり、英語学校には1ヶ月間真面目に通った。現存しているか不明だが、ミッドタウンの細いビルにあったレナート・バイリンガルという学校だった。国際色豊かな友達もできたが、生活していくための仕事も探さなければならなかったため、学校が終わるとマンハッタン中の日本食レストランを歩いて回った。

仕事も決まってもいないのに、ニューヨーク生活をスタートさせて1週間も経たないうちに、約1700ドルのウッドベースを買ってしまったことも無謀だったが、ニューヨークへ渡った目的でもあったため仕方ない。同時にタイムスリップしたとしても、きっと真っ先に買ってしまっているに違いない。レストランの張り紙や飛び込みで仕事を探し回ったが簡単には雇ってくれず、仕事が決まらないまま半月ほど経ち、日々所持金も減って行ったが、不思議と不安はなかった。

結局、所持金が100ドル前後になったタイミングで、その後4年間お世話になる「KODAMA」というレストランでウェイターの仕事が決まった。当時は不法就労も当たり前で、少なからず怪しい人たちも働いていたマンハッタンのレストランの面接で、真面目に履歴書を提出したウェイターは後にも先にもいなかったようだが、晴れて社会人1年目をマンハッタンのレストランで迎えることができた。

今回なぜニューヨークで社会人1年目を迎えた頃の話をしたかというと、雑誌関連の仕事以外に正社員として働いている会社で、今年5人の新卒社員が入社した。自分の子供ほどの年齢で正に自分がニューヨークに渡った当時とほぼ同い年の後輩にあたるのだが、自分たちの仕事やキャリアをしっかり見据えていて感動させられる日々も多く、本当にしっかりしているな〜と実感させられている。

自分と言えば、当時は夕方から始まるウェイターの仕事の時間まで、朝の楽器の練習後は、夏になると午前9時頃からお昼頃までセントラルパークの芝生に寝転んで、ラジオを聴きながら日焼けをする毎日だった。日焼けをしながらマンハッタの上空を浮遊する白い雲をぼんやり眺めて、今頃日本では大学時代の同期があくせく働いているんだろうな〜とうとうとしながら優越感に浸るというナメた生活を送っていた。

とても懐かしい思い出だが、今になってその頃のツケが回って来て、必死に働かざるを得ない状況に陥っているのは因果応報とも言えるかもしれない。但し、同時にタイムスリップしたとしても、反省などせずにセントラルパークの芝生に寝転んで、ラジオを聴きながら日焼けをする毎日を送っているに違いない。今回はニューヨークのダメ新卒社会人の話でした。

Hawaii Walker's (ハワイの歩き方)

Moanalua Gardens

モアナルア・ガーデン

今回はホノルルの西端モアナルア地区にある24エーカー(97,000平方メートル)の広さを持つ私有の公園「モアナルア・ガーデン」。嘗ては地元の実業家兼地主サミュエル・ミルズ・デイモンが保有していたが、現在は曾孫が経営するカイマナ・ベンチャー社の所有地となっている。毎年7月にはフラの祭典「プリンスロット・フラ・フェスティバル」も開催され、ここにそびえ立つモンキーポッドの大木は、日本のTVCMでお馴染み「この木なんの木〜」のメロディーで知られる“日立の樹”としても有名。

HP: <https://www.moanalua gardens.com>

《 ハワイな一枚 》



ウクレレ・ダンス
タイマネ・ガードナー
Mountain Apple [Import CD]

16歳でデビューアルバム『ロコ・プリンセス』を発表し、“女性版ジェイク・シマブクロ”と称されたタイマネ・ガードナーの2012年の作品。11曲収録。